



《 例会 》 毎月第2水曜日 19:00~21:00 若松栄町教会 (☎ 0242-27-3944)

2017~2018 年度主題

国際会長	「国境なき友情」
アジア地域会長	「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事 栗本治郎 (熱海)	「広げよう ワイズの仲間」
北東部部長 鈴木伊知郎 (宇都宮東)	「明日のために、いま土台を築こう」
会津クラブ会長 青山孝男	「新しい可能性を秘めて、共に歩もう！」

<No.272 会津通信>
2017年12月20日発行

会 長	青山孝男
副会長	高橋真美
書 記	高橋真人
会 計	高橋真人

◇12月の聖句◇

憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。

マタイ福音書5章7節

12月例会プログラム

日時 ; 2017年12月20日 (水)18:00~
会場 ; 居酒屋「かんぱな」

司会 ; 高橋真美さん

- | | |
|---------------------------------------|---------|
| 1. 開 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |
| 2. ワイズソング | 一 同 |
| 3. 会長あいさつ | 青山孝男会長 |
| 4. 連 絡・報 告 | |
| 5. 聖 句 朗 読 | |
| 6. 食前感謝 | クリスマス祝会 |
| 7. 会 食 | |
| 8. Happy Birthday! Happy Anniversary! | |
| 9. 閉 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |

<11月例会出席状況>

在 籍 者 5名 ゲスト0名
出 席 者 5名
*例会出席率 100%
あ か べ こ 5,000円
17-18年度合計 15,000円

課題

高橋 京子



私はまだテレビと新聞で世の中と繋がっているようなアナログ人間だが、「日本の国と日本人はだいじょうぶなの？」と心配になる。

テレビのチャンネルをどこに回しても、食物の話とゲームで盛り上がっている。それらで楽しむのが悪いと言うのではないが楽しむだけ。そして、どんなに常識人か、物知りかを競い合っているだけ(でいいの?) ニュースといえば、事件、スキャンダル日に幾度繰り返されることか。その話題性の強いニュースが繰り返し流されている陰で、大事なニュースが「ちらっ!」と流されて隠されていないか?

「あのニュース、その後はどうなったのか?」と気になっても出てこない、ということが、時々ある。

無関心でいる間に、日本の将来の進む先がぐっつと方向転換してしまっているかもしれない。

☆ 強い義務感を持とう 義務はすべての権利に伴う。 ☆

食べ物とゲームに踊らされている間に、一人一人が日本はどんな国であって欲しいのか。自分はどんな国に住みたいのか、そんな土台の所を考えたり、話し合ったりすることが、今の（今迄の）日本には少なすぎるのではないのか。社会、学校も含めて何にも踊らされず国の行く先を、自分たちで「見定めて選び決める」のだという基本的な姿勢を育てられていないのではないのか？子どもも大人も。

(次回は高橋真美さん)



12月活動報告

<第37回会津ユネスコ児童画展>授賞式

12月15日に第37回のあいづユネスコ幼児画展特別



賞表彰式が行われた。今年も参加施設園から279点が出品され、23の団体が、特別賞として62展に授賞した。



た。会津クラブも3人の幼児に賞状とメダルを授与した。会津クラブの授賞した作品の画題は、上から

「たいようの中の青虫」「大

きいおいもがとれたよ」「かぞくみんなで、いただきます」です。

会津ユネスコ協会が会津に設立され、初年度から実施されているとのことです。



<12月合同例会>

12月は、「ユニークダンスつばさ」との合同例会を居酒屋で開催。9名の参加で高橋力人よりクリスマスのメッセージを拝聴し、皆さんからはクリスマスの思い出を話してもらったり、料理と酒を楽しみました。また、杉並障害者福祉会館運営協議会主催の「クリスマスダンスパーティ」に参加した青山会長が映像で報告しました。



会津の先人たち（会津若松市HPより）

社会福祉・児童福祉の先駆者

瓜生 岩(岩子)(うりゅう いわこ)(1829-1897)

活動の軌跡

子どもたちが一人前になると、岩は社会児童福祉に力を入れていきます。戊辰戦争では、敵味方の区別なく負傷兵を看護し、避難民の救援に尽くしました。明治になると、喜多方に幼学校を設立し、読み書きそろばんなどを教えました。

小学校令が發布されると幼学校を閉鎖して上京し、貧民救済事業を学び、会津での施設開設に奔走します。しかし、官営の施設としては認可されず、それでも廃寺を借りて孤児や行路病者などの世話をしました。

明治19年に、陳情のため県庁のある福島の高楽寺境内に移り住み、その努力が実って4年後、県の許可を得て孤児のための福島教育所を設立するに至ります。その後救養会所を全国に設置するよう、第1回帝国議会に請願書を提出します。また、渋沢栄一に招かれ東京市養育院の幼童世話掛長を8ヵ月ほど務めました。当時、皇后陛下の御召により宮中に伺ったとき、素肌、素足・木綿の服で拝謁したことは、岩の飾らぬ人柄を感じさせるエピソードとして残されています。

女性初の藍綬褒章（らんじゅほうしょう）

会津に戻ってからは、若松・喜多方・坂下の3ヵ所に貧児養育施設を設置し、また貧困者のための医療施設を若松に開設しました。一方で、明治21年の磐梯山大噴火、24年の濃尾地震などにも難民の救出を行い、その資金捻出のため飴のかすを利用したかす餅やパンを考案し売出します。これらの活動により、女性初の藍綬褒章を授与されます。明治30年4月19日、福島に帰った岩は、無理がたたり、心臓病で多くの人に惜しまれながら永眠しました。

次回は医師を超えた人 渡部 鼎(わたなべかなえ)

◆ 今後の予定 ◆

◇1月例会 1月17日
新年例会

◇ユニークダンス (休み)